

令和6年度 東京都立両国高等学校全日制課程・附属中学校 学校経営報告

校長 金田 裕治

1 今年度の取組と自己評価

- 【評価方法】 ① 学校運営連絡協議会による評価（生徒・保護者・教職員）
② 全教員に対する生徒による授業評価

（1）教育活動への取組と自己評価

取 組	自 己 評 価
1 学習指導 ① 放課後、土曜日、長期休業日における補習・講習をより一層充実し、生徒一人一人の学力の伸長を目指す。また、都と連携し外部人材を活用した補習指導体制を強化する。 ② 附属中学校では、学力推移調査等を、高校では、外部模試等の意義を生徒に理解させ、学年・教科は分析結果を学年集会等の指導を通して生徒に還元するとともに、6年間の経年変化を把握し、丁寧できめ細かい指導を継続する。 ③ 学校運営連絡協議会による学校評価アンケート調査の結果の分析や、管理職による授業観察での助言等を参考にして、授業力向上に係る課題を整理・改善する。	① 生徒が主体的に学び合うことのできるペアワーク、グループ活動及び発表活動等の授業が実践できた。また、学力を保障する放課後、土曜日、長期休業日における補習・講習を予定どおりに実施することができた。 ② 今年度は、教育課程どおりの教育活動が実践できたことから、長期休業日期間の夏期講習、冬期講習を充実させるとともに、必要な教科については、放課後の補講等を実施した。 また、外部模試の分析結果を学年集会等で生徒に還元するとともに、教科指導に活かしながら丁寧できめ細かい指導できた。 ③ 高校3年生の進路実現に成果を上げた。また、高校2年生は、3学期を高校3年0学期として位置付けるとともに、附属中学校3年生は学年集会や卒業面接等で高校進学に向けた意識付けを行った。
2 進路指導 ① 生徒が活用しやすい「進路の手引き」「進路指導資料」及び「キャリア・パスポート」を作成し活用する。 ② 生徒・保護者との面談をきめ細かく実施するとともに、後援会や淡交会と連携した進路懇談会、体験講話などを一層充実し、生徒のキャリア教育を推進する。 ③ 進路部主導で学年との連携を強化し、教員・生徒・保護者に「進路だより」の定期的発行を通して適切な進学情報の提供、本校卒業生による「進学講演会」を実施し、進路意識の高揚につなげていく。また、生徒が利用しやすいよう進路指導室に常駐の教員を配置し、生徒の進学にかかる面接指導等を丁寧に行う。	① 「進路の手引き」「進路指導資料」は、これまでの大学受験状況を蓄積した資料として、進路指導や面談等で活用することができた。「キャリア・パスポート」を6年間継続して活用できる様式にするとともに、小学校の活動記録も見えるように変更した。 ② 各学年に応じた保護者会で進路情報の提供や個別面談を実施するとともに、特に高校3年生では、三者面談を実施し、生徒個人データを基に進路指導を行った。 ③ 時機に応じた最新情報を「進路だより」の発行や「進学講演会」を実施することで進路意識の高揚につながった。また、外部模試による本校の現状把握と経年比較、他校との比較・分析はもとより、校内分析会等により、生徒個人データの共有化・課題等の発見により組織的な進路指導に取り組んだ。
3 生活指導 ① 附属中学校と高校が連携し、挨拶指導、制服着用指導、頭髮指導、遅刻指導などを組織的に実施する。 ② 交通ルールの遵守、登下校時のマナー向上の指導を徹底するなど、交通安全教育を強化する。 ③ 学年・クラス・部活動・生徒会単位でのボランティア活動など、奉仕体験活動の推進に取り組む。 ④ スクールカウンセラーや特別支援教育センター校の中野特別支援学校等の外部機関などと連携した相談体制を強化する。	① 附属中学校を中心に朝の挨拶指導を継続することができた。また、高校における遅刻者を減少させることができていないことから、次年度も挨拶指導や身だしなみが向上する取組みを工夫しながら生活指導を充実させる必要がある。 ② 都立高校の自転車通学においては、ヘルメット着用が義務化されたが、着用が不十分のため引き続き指導を強化する必要がある。 ③ 地域からの要請に基づき、ボランティア活動が活性化してきた。 ④ スクールカウンセラーやセンター校のCSVと連携した相談体制を構築するとともに、教育相談に関する研修が実施できた。
4 特別活動・部活動 ① 学校行事・生徒会活動・委員会活動などを一層充実発展させる。 ② 部活動を充実させ、加入率の向上を図るとともに、学習との両立を図らせる。また、部活動の活動目標と年間指導計画を作成し、年間計画に従った計画的な部活動を展開する。 ③ 附属中学校3年生におけるスタディツアールinユタ（海外研修）の充実とともに、6年間を見通した高校までのスタディツアール（海外研修）を検討する。	① 全ての学校行事において実施内容や方法を工夫することにより、高校と附属中学校の合同開催が定着できた。また、実行委員会の活動を中心に帰属意識、連帯感などの育成を行った。 ② 部活動は、兼部も含めると100%以上の加入率となった。 ③ 附属中学校では、アメリカ・ユタ州における研修旅行を計画どおり安全に実施することができた。また、高校では姉妹校のあるカンボジアにおいて海外研修の準備を進めることができた。

（2）重点目標への取組と自己評価

取 組	自 己 評 価
-----	---------

1 国公立大、難関国立大へのチャレンジを支援 ① 国公立大学、さらに、難関国立大学へのチャレンジを支援する。 ② 放課後講習、土曜日・長期休業日の講習等を強化し学力向上を図るとともに、きめ細かな進学相談を実施することで予備校等に頼らない、生徒の難関国立大学・国公立大学へのチャレンジを支援する。	① 生徒の早い段階での進路希望の設定と、学年集会や進路部講話などで志望校の確認と指導を行った。次年度も進路部中心に学年と連携し生徒の進路実現を図る取組みを継続する。 ② 夏季休業日における講習予定を早い時期に提示することで、予備校・塾に頼らない自校の講習での完結を目指した。また、複数開講することで希望する講習を受講できるようにした。
2 広報・募集活動の充実 ① 総務部を中心に、これまでの授業公開、学校見学会・説明会に加え、体験授業や学習塾対象説明会等の新しい広報活動を企画・実施することで、小学生・保護者に対する広報・募集活動の充実を図る。	① 早期に学校案内を作成し、ホームページで学校案内や学校説明動画を閲覧できるようにするとともに、体験授業等の講座を拡大し積極的に受け入れを行ったが、受検者は608名にとどまった。次年度は、授業見学や体験授業等の受け入れ時期等を検討し、本校を理解する広報を推進する。
3 礼節指導の徹底 ① 朝の挨拶指導はもとより、相互の挨拶、来校者に対する挨拶指導を徹底する。セーフティ教室や登下校のルールやマナー遵守の組織的な指導を徹底する。そして両国生として品格のある立ち居振る舞い・挨拶・言葉遣い等を、全教職員できめ細かく指導する。	① 避難訓練や学年集会等の様々な場面を活用し、安全教育を実施した。また、薬物乱用防止など低年齢化が課題となっている講演会も実施できた。次年度は、授業公開や授業公開等のより実践的な場面や指導を通して、お互いを思いやる気持ちの育成、来校者への挨拶、社会性の向上を図る。
4 数値目標の達成状況 ① 長期休業日等の講習、延べ200回、受講者5000人以上を目指す。 ② 部活動加入率90%以上 ③ 英語検定、附属中学校3年生までに準2級85%、2級40%の合格 ④ 国公立大学の現役合格者数70名以上、難関国立大学・医学部の現役合格者数20名以上を目指す。	① 長期休業日等の講習、延べ225回、受講者1754人となった。また、放課後講習等6講座を開講し進路実現を図ることができた。 ② 部活動加入率延べ130%となった。 ③ 英語検定準2級以上88%、2級以上53%が合格した。 ④ 国公立大学合格者36名のうち、難関国立大学12名合格、うち医学部合格者1名。現役進路決定率91%

2 次年度以降の課題と対応策

課 題	対 応 策
今年度は、昨年度の5クラス規模から3クラス規模に減少したが、難関国立大学合格実績は、昨年度と同様の合格者数となった。東大合格者も7名と高い合格率を維持することができた。また、国公立医学部医学科合格者は、1名と減少したが、医学部検査関係の合格者を出すことができた。このことから高いレベルの大学の様々な学部学科の現役合格を希望していることから、進路・進学指導を充実させる。	・ 高校3学級規模の学年体制が2年目となることから、年2回の指導会議や模試分析の結果を学年だけでなく、進路・各教科等で連携して組織的に行うことを徹底する。 ・ 日々の授業のさらなる充実、高レベルを維持しながらも、生徒の能力・習熟度等に応じた指導の工夫を行うとともに、「チーム両国」を合言葉に、全校を挙げて生徒の進路実現に組織的に取り組む。
高校からの募集停止に伴い附属中学校からの入学が増加し都民からの期待が一層高まる中、学力向上だけでなく、生徒の人格と品性を涵養するよう、教科指導、学校行事及び部活動等を通して、けじめのある学校生活を送らせる。次年度より、附属中学校4クラス規模の生徒が高校段階に進学することから、指導を充実させる必要がある。	・ 始業式や終業式、学年集会等の機会を捉え、進学校としてふさわしい「礼節を重んじる」態度の育成に努める。 ・ 朝の挨拶指導や服装指導、遅刻指導や駐輪指導、また、登下校のルール遵守やマナー向上、自転車での安全走行等の指導、さらに、日常の清掃活動を含めた校内美化活動などを組織的に行う。
「自律自修」の精神を涵養するとともに、「たくましさ」の育成に努める。	・ 本校の伝統である、「チャイムとともに始まり、チャイムとともに終わる授業」の実践を継続する。 ・ 部活動で体力・気力・精神力の育成、社会性やチームワークの養成に努めさせる。 ・ 体育祭・文化祭・合唱コンクールの三行事は、学習と行事の両立を鑑み、短期間で最大のパフォーマンスが発揮できるよう工夫するとともに、クラス一体となった協力体制の構築に努めさせる。
学習指導要領の改訂に基づいた国立大学入試の共通テスト6教科8科目に対応した指導内容・方法を検討するとともに、研修を推進する。	・ 今年度の大学入試の結果や学習指導要領・評価規準の改訂を踏まえ、教科主任会を効果的に活用するとともに、生徒の進路実現や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業研究を推進する。
教職員と経営企画室とが一体となった学校運営を一層推進する。	・ 企画調整会議や職員会議への経営企画室職員の参加を通して、課題の共有化とともに、経営参画を推進する。 ・ 予算調整会議の活性化に努め、効果的な計画・円滑な執行を行う。